

令和5年度 小樽市立銭函中学校 学力向上改善プラン

1 生徒の実態

<全国学力・学習状況調査結果から>

- ・国語において、◇話し合いの話題や方向を捉えることや聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することはできている。また、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写をもとに捉えることはできている。その一方で、行書の特徴や表現の技法について理解することに課題がある。記述式の問題になると無回答率が高い(あきらめて答えようとしない生徒が多い)。
- ・数学においては、簡単な二元一次方程式を解くことや与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることやおおむねできている。その一方で、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成立することを説明することに関しては課題がある。さらには、筋道を立てて、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。
- ・朝食の摂取については、94.3%の生徒が「ほぼ毎日食べている」と回答したように昨年度に引き続き非常に高い割合となっている。その一方で、「平日の携帯電話やスマートフォンの取扱時間」が全国、全道平均を大幅に上回っている。「ルールがない」と解答した生徒が20.0%いることから、「おたるスマート7」に基づき、1日2時間以内、22時以降は扱わないなどのルール設定をすることが望まれる。

<標準学力検査より>

- ・英語は昨年度より大きく改善したものの、どの教科も目標値を下回っている。ICT機器の活用や教え込授業からの脱却を図るなどして、生徒の見方・考え方を深めるような授業改善を進めていく必要がある。

<独自調査や日常のより>

スマートフォン、携帯電話の平日の取り扱い時間が3時間を超える生徒が22.5%(R5.2独自調査)と長い傾向にある。逆に家庭学習を全くしない生徒が22.76%(同調査)存在し、タイムマネジメントに大きな課題があり、家庭との連携を強化する必要がある。

<数学科>

学年	定着目標
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・一次方程式を解くことができる。(70%) ・情報を基に、根拠を明らかにしながら自分の考えを表現する教えあう場面を単元の中で意図的に1回以上設定する。 ・チャレンジテスト平均点55%以上達成。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を用いた式の四則計算ができる。(70%) ・情報を基に、根拠を明らかにしながら自分の考えを表現する教えあう場面を単元の中で意図的に週に1回以上設定する。 ・チャレンジテスト平均点55%以上達成。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・二次方程式を解くことができる。(65%) ・情報を基に、根拠を明らかにしながら自分の考えを表現する教えあう場面を週に1回以上設定する。 ・チャレンジテスト平均点50%以上達成。

<学習・生活習慣(家庭学習等)>

学年	定着目標
全年	<ul style="list-style-type: none"> ・1日、全く勉強しない生徒の割合を10%未満とする。 ・携帯電話、スマートフォンの平日の取扱時間3時間以上の生徒20%以下を目指す。

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ① 国語 ～ 「読み・書き」の着実な定着を図るために、様々な資料を読む活動に取り組む。また、国語科のみならず、各学年の朝の読書活動を推進する。
- ② 数学 ～ 個に応じた基礎・基本の指導を行う。また、問題演習を始めとして、復習時間を確保する。
- ③ 全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト実施結果の分析と全教員による実態把握と改善点を検討する。
- ④ 生徒の実態把握と個に応じた指導の充実
～定期テスト・単元テスト等を活用し、放課後等の個別指導の充実を図る。
- ⑤ 放課後学習・長期休業中の学習会の実施

(2) 授業改善を図る校内研修の取組

- ① 「小樽 授業づくり5つのSTEP!!」をもとにした授業改善
～課題提示と振り返りを重視した授業の構築
- ② 校内研究授業の実施・協議、改善方向の検討
～コミュニケーション活動を重視した授業実践と授業交流を通じて資質向上を図る。
- ③ 各種研修会・研究会への参加と還流
- ④ 公開研究会の開催

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ① 「おたるスマート7」の定着と情報モラルに関する指導の充実
- ② テレビ、ゲームの時間の目安、生活リズムチェックシートの活用等の取組
- ③ テスト計画表等を活用した家庭学習習慣の確立
- ④ 学校図書館司書を活用した学校図書館の充実をめざし、図書館を活用した授業を展開すると共に、家庭と連携した読書習慣の定着を図る。

2 学年ごとの定着目標(数値目標)

<国語科>

学年	定着目標
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別配当漢字の6割以上書くことができる。 ・情報を基に、根拠を明らかにしながら自分の考えを表現する場面を単元の中で2回以上設定する。 ・チャレンジテストで平均点60%以上達成。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別配当漢字の6割以上書くことができる。 ・情報を基に、根拠を明らかにしながら自分の考えを表現する場面を単元の中で2回以上設定する。 ・チャレンジテストで平均点60%以上達成。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別配当漢字の6割以上書くことができる。 ・情報を基に、根拠を明らかにしながら自分の考えを表現する場面を単元の中で2回以上設定する。 ・チャレンジテストで平均点55%以上達成。

⑤心身の健康に向けて、「早寝・早起き・朝ごはん」等、規則正しい生活習慣の定着に向けて保護者との連携を深める。

員、保護者、生徒)の活用。
② 定期的(週1回)な生徒指導交流

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R5年	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施。 ・チャレンジテストの実施 ○標準学力調査の結果分析 ・授業参観の実施 ○全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員での分析および学校の取組の検証 ・校内研修による改善方策の検討・取組
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストにおける検証 ・チャレンジテストの実施
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観の実施 ・学校の自己評価の実施(アンケート) ・夏季休業中の学習会の開催 ・中学校区における全国学力・学習状況調査の結果の情報交換の実施
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期評価を踏まえた2学期の改善方策実施
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○R5全国学力・学習状況調査結果分析 ・銭函中学校区合同研修会の開催 ・保護者への調査結果の説明 ・学力向上改善プランの評価・改善 ・保護者への調査結果の説明 ・学力向上改善プランの評価・改善
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会の実施 ・地域公開日の実施
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期定期テストの実施 ・チャレンジテストの実施
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の自己評価の実施(アンケート) ・銭函中学校区合同研修会の開催 ・チャレンジテスト(2学期末問題)の実施
R6年	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・学年末テスト(3年)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・学年末テスト(1, 2年) ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○新学力向上改善プランの作成

6 評価方法

- (1) 基礎学力の確実な定着を図る取組
 - ① 全国・学力学習状況調査(3年)、標準学力テスト(2年)、チャレンジテスト、単元・定期テスト等により状況を把握する。
- (2) 授業改善を図る校内研修の取組
 - ① 教職員評価、学校評価等を活用する。
 - ② 授業実践を重視した交流授業の活性化する。
 - ③ 授業の地域公開(11月上旬予定)と公開授業(10月18日予定)の実施。
- (3) 望ましい学習習慣・生活習慣を形成する取組
 - ① 全国・学力学習状況調査の生徒質問紙やCRT、学校評価(教職